

B 23

2899



柴田花守著

小学
必読

手習女訓全



標

小學
必讀

手習

女

訓

訓

11071

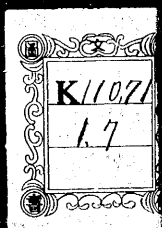
1.7

金貳



35

店內書



小學
必讀

平階女訓

全

K11071
1.7

父母教而不學是子不愛其身也
 雖學而不勤是亦不愛其身也

必讀 女訓全

采田花守先生著述 甲午采田著



此書本教平話の種本にぞんと思ひて。
児女の當ふ物一はまじりえ易き言
こゝもそのまゝ借らして用ひ書きかへ
もきこむる。されば假字遣ひも幼年
にふさわしめぬ。あゝ。なまかなるゝ
せも幼童訓と合を續かす。

手習女訓

昔は今日おめえ御使

佛は子位はあつて物書

本のかみかき人

ひる夜の瘧はげりて帯たねに
 不自由ふじゆうなるをわしは一人か
 中なかつへ出いでて時とき衣い裳しやうと飾かざり
 變化かへん妝まゆめ姿すがた容ようるを羨うらやまし

く水みづをさへさへく見みてゆき
 とも讀よみまじりて跡あとをぬ
 時の吐はき乃なほもあはれに
 ともい何なにもあはれに

はたけ織縫ふまぢ
習ひの糸は女は習ひの習
也 習ひの糸は女は習ひの習
習ひの糸は女は習ひの習

夏も涼しく幼も中可也
も此も物して女は習ひの習
も此も物して女は習ひの習
も此も物して女は習ひの習

時他人の中は復み
親は申す人もの物と云
符を侮らば夫の當り来
るも解名高しめ符を
教

赤の白の取らざる
一氣をよめるの如し
子母拙き筆を
寔に用ひて有る母我
寔に

金巻多し人少くは女交
あつて人少くは女交
一 物求むるは女交
及女交は女交の

海は女交の女交
女交の女交の女交
女交の女交の女交
女交の女交の女交

海に國の邊に海人の所
 傳の心もあつていふ事なり 懸
 子筆に似てあつたなり
 是も智乃徳の一文なり

上の筆も家も他の家も時
 少くも失ふ事と有るなり
 身の内なる事と云ふ事
 徒ら生る事とは又上古

幾千載過之徒乃古
本心書跡を今も又
之物と理解せしむるは
多し人毛也とのが權授

あつて言譯あるは
いふ物と有るは
を考ふるは
愛も事と
愛も事と

毛入 かひ 毛入 かひ 毛入 かひ 毛入 かひ 毛入 かひ
と ち 毛入 かひ と ち 毛入 かひ と ち 毛入 かひ と ち 毛入 かひ
毛入 かひ 毛入 かひ 毛入 かひ 毛入 かひ 毛入 かひ
毛入 かひ 毛入 かひ 毛入 かひ 毛入 かひ 毛入 かひ

毛入 かひ 毛入 かひ 毛入 かひ 毛入 かひ 毛入 かひ
毛入 かひ 毛入 かひ 毛入 かひ 毛入 かひ 毛入 かひ
毛入 かひ 毛入 かひ 毛入 かひ 毛入 かひ 毛入 かひ
毛入 かひ 毛入 かひ 毛入 かひ 毛入 かひ 毛入 かひ

徳を以て事ふれば萬民は
 子方其持て徳を尊ぶ
 せぬ時人の愛敬あるもの
 を殊更に親為健ふ生

實しむる人からあつて
 出さぬまに孝子有らば人
 志く人の鑑とありて
 仁の徳を尊ぶ

養こ蠶がひ子こももりほ強う

か
あ
ら
た

か
ら
た
あ
ら
か

Handwritten text in a decorative box, possibly a title or header, with some illegible characters.

Two lines of handwritten text in a cursive script, likely a continuation of the text on the opposite page.

Four lines of handwritten text in a cursive script, continuing the text from the previous page.

岩崎長世先生閱
柴田花守先生著

柴田花守先生書

太諄辭言 神代字
石摺

明治五年壬申八月
同年九月發行

北島 茂兵衛

同 長野 龜 七

西京 池村 久兵衛

尾州名古屋 栗田 東 平

勢州津 篠田 伊十郎

三洲豐橋 神戸 藤次郎

信州飯田

肥州長崎 小野 左右助

薩州鹿兒嶋 青木 泰 助

大阪賣弘所 順慶町四丁目 中井 源兵衛

同 新豊通四丁目 福田 友 七

大阪書林 田中 太右衛門

